

平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社銀座山形屋
 コード番号 8215 URL <http://www.ginyama.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部長
 四半期報告書提出予定日 平成25年8月9日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 山形 政弘
 (氏名) 渡辺 光潤

TEL 03-6680-8711

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	1,138	0.8	59	155.6	109	92.4	105	103.1
25年3月期第1四半期	1,129	6.4	23	—	57	—	51	—

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 133百万円 (9.8%) 25年3月期第1四半期 121百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	6.09	—
25年3月期第1四半期	3.00	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第1四半期	4,381	2,645	60.4	153.25
25年3月期	4,180	2,512	60.1	145.53

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 2,645百万円 25年3月期 2,512百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,985	2.5	△143	—	△112	—	△116	—	△6.71
通期	4,401	2.1	14	—	56	107.4	40	566.7	2.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期1Q	18,044,715 株	25年3月期	18,044,715 株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	781,294 株	25年3月期	780,469 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期1Q	17,263,696 株	25年3月期1Q	17,265,254 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく監査手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	2
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	2
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	2
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、昨年末以降の新政権によるデフレ脱却に向けた経済政策等による景気回復期待から高額品の消費支出が増えるなど一部に明るい兆しが見られたものの、消費全般としては依然として先行き不透明な状況のまま推移しております。

このような環境の下で当社グループは前期に引き続き「世界のオーダーメイド企業をつくる」を合言葉に“ぶれることなく”継続し続けること、磨きつづけることに取り組んでまいりました。経営成績につきましては、売上高は小売事業及び受託縫製事業の受注が比較的順調に推移したことから1138百万円(前年同四半期比0.8%増)となりました。利益面については売上高の増加に伴う売上総利益の増加等により、営業利益59百万円(前年同四半期比155.6%増)となりました。また、貸倒引当金戻入額23百万円や受取配当金22百万円の計上等により経常利益109百万円(前年同四半期比92.4%増)となりました。法人税等4百万円の計上により四半期純利益105百万円(前年同四半期比103.1%増)となりなりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

小売事業が売上高505百万円(前年同四半期比3.3%増)、営業利益33百万円(前年同四半期比978.6%増)、卸売事業が売上高382百万円(前年同四半期比4.7%減)、営業利益2百万円(前年同四半期は1千7百万円の営業損失)、受託縫製事業が売上高247百万円(前年同四半期比7.0%増)、営業利益35百万円(前年同四半期比41.2%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期末における総資産は4,381百万円となり、前連結会計年度末に比べ200百万円増加いたしました。

主な要因は、季節要因による売掛金等の営業債権の回収に伴う現金預金の増加によるものであります。

負債につきましては前連結会計年度末に比べ67百万円増加し1,735百万円となりました。主な要因としては受託縫製事業における設備投資に伴う、設備未払金の計上34百万円があったこと等によるものであります。

純資産につきましては、前事業年度末に比べ133百万円増加し2,645百万円となりました。主な要因としては四半期純利益105百万円を計上したこと及び投資有価証券の時価回復に伴いその他有価証券評価差額金が28百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期までの業績につきましては、概ね計画どおり推移しております。平成26年3月期の業績予想につきましては、平成25年5月13日に公表いたしました連結業績予想に変更はございません。

なお、この予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報を前提としております。実際の業績は今後様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度(69期)において営業キャッシュ・フロー、経常利益の黒字化は達成しておりますが、69期までの5期連続の営業損失の計上により、継続企業の前提に関する重要事象等が存在しております。そのため、営業利益および営業キャッシュ・フローの継続的な黒字化が最優先の課題であると認識し、当該事象を改善又は解消すべく以下の対策を実施してまいります。

当社グループは「安定した利益とキャッシュ・フロー」を出せる経営基盤の確立の方針のもと、銀座山形屋の服づくりのこだわり「MADE IN JAPAN」・「着心地と品質」を第一としたオーダーメイドを柱に、「世界一のオーダーメイド企業をつくる」を合言葉に「品質の改善・向上」・「100%のリピートオーダーを目指す」を目標にグループ企業一体となり収益力向上を図ってまいります。

- ① 一人一人の販売の力をレベルアップし「満足されたお客様は2度目もご愛用いただける100%のリピートオーダーを目指す」を目標に再客(リピーター)をものさしとし、品質・品揃え・価格・接客・知識すべての分野において、テラー銀座山形屋のプロとして「商売の原点は“お客様”にある」を大切にして行く集団をつくりあげてまいります。
- ② ブランドにおいてはそれぞれの志向の異なるお客様に向けて、更なる魅力的なブランドとして認知していただくために、「銀座山形屋ブランド」は、銀座流の良質な大人の装いをテーマに、安心できる納得の品質でお客様に満足感を提案してまいります。この春夏には、クールビズ対応での“品質”と“機能”に重点を置いて「いかに着こなすか」をテーマにファッションスタイル提案をさせていただきます。お洒落に拘りを持ったお客様への「サルトリア プロメッサブランド」は、35歳をメインターゲットにイタリアの洋服文化を感じていただきながら、「あなたを包む価値ある一着」のコンセプトのもと、スーツを軸にファッション提案してまいります。女性のためのベーシックデザインを基本とした「ミスターナブランド」は、30歳から40歳を中心に、自分の体型にあった拘りの1着をファッションとともに、お客様にお届けすることにより満足感を提案しパターンオーダーメイドシステムを更に強化し、他社とは一味違う着心地感とファッション性を追求してまいります。
- ③ 製造事業会社に、28歳をメインターゲットにしたオーダースーツの入門編としての「ブレフ」ブランドを移管し、従来からのインターネットによるオーダースーツ販売ブランド「スーツファクトリー d p i」とともに、ネットそして若い人達向けブランドとして販売強化してまいります。
- ④ 製造部門におきましては、TSS手法の活用で「ムダ・ムリ・ムラ」のない製造工程を作りあげ、安定した品質向上の出来る生産体制による魅力ある商品をつくり、物流システムを見直し販売体制との効率的な仕組みを作りあげてまいります。
- ⑤ 固定費削減による収益力向上をはかるため、一つ一つの費用を見直し経費削減への取り組みを速やかに実施してまいります。

上記を中心とした施策を「ぶれることなく」継続しつづけて行くこと、磨きつづけること、により営業利益および営業キャッシュ・フローの継続的な黒字化に努めてまいります。資金に関しましては、当第1四半期末時点での現金及び預金(長期預金含む)と投資有価証券の合計額は22億6千6百万円であり借入金や手形発行もなく財務面に支障はなく、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	746,860	907,501
受取手形及び売掛金	496,094	477,008
商品及び製品	141,095	134,995
仕掛品	16,370	17,232
原材料	108,923	117,504
その他	60,073	67,321
貸倒引当金	△2,805	△2,214
流動資産合計	1,566,612	1,719,349
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	101,736	101,814
その他(純額)	271,104	289,443
有形固定資産合計	372,840	391,257
無形固定資産		
その他	5,042	4,839
無形固定資産合計	5,042	4,839
投資その他の資産		
投資有価証券	1,227,546	1,259,218
敷金及び保証金	775,648	771,952
その他	271,244	249,445
貸倒引当金	△38,112	△14,558
投資その他の資産合計	2,236,326	2,266,058
固定資産合計	2,614,210	2,662,155
資産合計	4,180,822	4,381,504
負債の部		
流動負債		
買掛金	235,197	266,236
未払法人税等	18,580	6,285
ポイント引当金	31,411	30,984
その他	386,288	447,088
流動負債合計	671,478	750,594
固定負債		
退職給付引当金	590,492	575,498
役員退職慰労引当金	87,914	89,034
資産除去債務	195,326	195,367
その他	123,129	125,358
固定負債合計	996,863	985,258
負債合計	1,668,342	1,735,853

(株)銀座山形屋(8215)平成26年3月期第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,727,560	2,727,560
資本剰余金	242,303	—
利益剰余金	△473,553	△126,034
自己株式	△79,348	△79,427
株主資本合計	2,416,962	2,522,098
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	95,518	123,552
その他の包括利益累計額合計	95,518	123,552
純資産合計	2,512,480	2,645,651
負債純資産合計	4,180,822	4,381,504

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	1,129,390	1,138,018
売上原価	518,436	515,512
売上総利益	610,953	622,505
販売費及び一般管理費	587,819	563,382
営業利益	23,134	59,122
営業外収益		
受取利息	346	217
受取配当金	28,262	22,278
貸倒引当金戻入額	—	23,529
受取手数料	3,161	3,404
雑収入	2,713	1,353
営業外収益合計	34,484	50,783
営業外費用		
支払利息	126	94
雑損失	480	101
営業外費用合計	606	196
経常利益	57,012	109,709
税金等調整前四半期純利益	57,012	109,709
法人税、住民税及び事業税	5,221	4,509
法人税等調整額	△21	△15
法人税等合計	5,200	4,493
少数株主損益調整前四半期純利益	51,812	105,215
四半期純利益	51,812	105,215

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	51,812	105,215
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	69,538	28,033
その他の包括利益合計	69,538	28,033
四半期包括利益	121,350	133,249
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	121,350	133,249

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

平成25年5月13日開催の取締役会において、平成25年6月26日開催の第69期定時株主総会に資本準備金の額の減少及び剰余金の処分について、以下の内容について付議することを決議し、同株主総会にて承認可決されております。なお、本件は、「純資産の部」の勘定内の振替であり、当社グループの純資産合計に変動はありません。

(1) 資本準備金の額の減少及び剰余金処分の目的

繰越利益剰余金の欠損の填補を行うことを目的として、資本準備金の額の減少及び剰余金の処分を行おうとするものであります。

(2) 資本準備金の額の減少の要領

減少する準備金の額	
資本準備金	242,303千円
増加する剰余金の額	
その他資本剰余金	242,303千円

(3) 剰余金の処分の要領

減少する剰余金の額	
その他資本剰余金	242,303千円
増加する剰余金の額	
繰越利益剰余金	242,303千円

上記の結果、当第1四半期連結会計期間において資本剰余金が242,303千円減少し、利益剰余金が242,303千円増加しております。当第1四半期連結会計期間末においては利益剰余金が△126,034千円となっております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	小売事業	卸売事業	受託縫製事業	
売上高				
外部顧客への売上高	489,117	401,053	231,201	1,121,372
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	467,536	467,536
計	489,117	401,053	698,738	1,588,908
セグメント利益又は損失(△)	3,075	△17,971	25,132	10,237

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	10,237
セグメント間取引消去	1,008
棚卸資産の調整額	△91
その他の調整額	△2,968
全社収益(注1.)	93,629
全社費用(注2.)	△78,680
四半期連結損益計算書の営業利益	23,134

(注1.) 全社収益は、主に当社におけるグループ会社からの経営指導料、不動産賃貸収入等であります。

(注2.) 全社費用は、主に当社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	小売事業	卸売事業	受託縫製事業	
売上高				
外部顧客への売上高	505,198	382,140	247,499	1,134,838
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	419,224	419,224
計	505,198	382,140	666,724	1,554,063
セグメント利益	33,168	2,643	35,499	71,311

(注) 表示方法の変更

従来、「その他」の区分に持株会社としての管理業務、不動産賃貸業等を記載していましたが、不動産賃貸収入の減少をうけて見直したことにより、「その他」から差異調整に関する事項の全社項目として開示することがより適切であると判断したため、前第3四半期連結会計期間より表示方法を変更しております。

この結果、前第1四半期連結累計期間の「その他」のセグメント利益14,948千円を差異調整に関する事項の全社収益93,629千円及び全社費用78,680千円に組替えております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	71,311
棚卸資産の調整額	1,178
その他の調整額	△3,206
全社収益(注1.)	64,577
全社費用(注2.)	△74,739
四半期連結損益計算書の営業利益	59,122

(注1.) 全社収益は、主に当社におけるグループ会社からの経営指導料、不動産賃貸収入等であります。

(注2.) 全社費用は、主に当社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、オーダーメイド販売及びブランド力の強化を目的とした会社組織の変更に伴い、報告セグメントを従来の「小売事業」から「地方パーソナル販売」を「卸売事業」へ、「プレフ販売」を「受託縫製事業」へそれぞれ移管しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、会社組織変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。